

会議録

| | |
|--|------------------------|
| 会議の名称 | 令和5年度 第4回別府市公共交通活性化協議会 |
| 開催日時 | 令和6年3月28日（木） 10:00～ |
| 開催場所 | 別府市役所1階 レセプションホール |
| 出席者 | 別添出席者名簿参照 |
| 《会議の内容》 | |
| <p>第1号議案 書面会議の結果について（報告） （事務局説明） 地域公共交通確保維持改善事業一次評価及び令和6年度地域内フィーダー系統確保維持改善計画について報告。 （質疑応答） 特に意見等なし。</p> | |
| <p>第2号議案 別府市公共交通活性化協議会設置規約の一部改正について （事務局説明） 同協議会設置規約の一部改正について説明。 （委員） 事前に事務局から説明があり、その際修正を依頼した事項が修正されていないので、修正をお願いしたい。 （委員） 第3条第4項の運賃等の協議を改正案で取り除くということだが、どういうことか説明願いたい。 （事務局） これまで運賃は公共交通活性化協議会で協議していたが、法改正により、運賃に関しては運賃協議会という組織を別に作るようになるので削除したということである。 （協議結果） 修正を前提に、原案どおり承認。 →（その後の対応） 修正案を令和6年5月の協議会で提示済。</p> | |
| <p>第3号議案 令和5年度別府市公共交通活性化協議会補正予算案について （事務局説明） 令和5年度別府市公共交通活性化協議会補正予算案について説明。 （委員） 令和5年度の予算となっているが、既の実施済みという理解でよいか。 （事務局） 既に準備段階であり、本日予算が通れば、すぐに契約してアンケート調査票の発送準備をしていきたいと思う。 （委員） 成果が出てくるのは、次年度ということか。 （事務局） 4月いっぱいの調査になると思うので、5月の中旬にはある程度の数字が出るものと思われる。 （協議結果） 原案どおり可決。</p> | |
| <p>第4号議案 令和5年度実績について （事務局説明） 令和5年度実績について説明。 （委員） 県内外から移住を前提にタクシー業界への就職を検討している方の情報が増えつつあるので、引き続きご支援願いたい。 （委員） 当社は令和6年4月早々に対象者が入社するという事で、メディア等に取り上げられ注目されている。継続されるというこ</p> | |

とで、感謝しているが、今後は就職氷河期世代にあたらぬ方も含めた支援の拡大等を検討いただきたい。

(事務局) 少し金額は低く、時期も7月以降になると思うが、年齢が就職氷河期に含まれない方についても、1人10万円、12歳以下のお子さんがある家庭は30万円の移住支援金を行う。

(委員) 今年度、県外の就職氷河期の年齢層でない方が5名ほど県外から来たので、ぜひお願いしたい。

(事務局) 承知した。

第5号議案 別府市地域公共交通計画の事業達成状況の評価について

(事務局説明) 別府市地域公共交通計画の事業達成状況の評価について説明。

(委員) 令和4年度と令和5年度にどういった評価状況となっているのか、また進捗状況はどうなっているのかを、次回以降の交通会議で説明してもらえるとありがたい。

(事務局) 承知した。

(委員) 別府市は「計画の目標達成するための市民協力について」はどのように周知しているのか。

(事務局) 今年度は、市のホームページでの周知のみだったので、今後は市報等で定期的に周知を図っていければと考えている。一昨年度は、資料を市内各箇所に設置し周知した。

(事務局) 補足説明だが、周知のために現在取り組んでいるのが、アンケート調査である。昨年度だけでも6,000人に対してアンケート調査を実施している。今は広報よりも市民の声を行政に向けて発していただき、公共交通の意識づけを優先的に行っている。

(委員) 評価に関しては、利用状況を断面的に見て評価する場合もあるが、現状がどういった傾向であるかわかるように推移を示す等の説明をした方が良くと思う。

(事務局) 現状の公共交通の現況は、地域コミュニティ交通の利用者数は増えていないが、民間のバス路線やJRの利用者数は、増加傾向にある。

(協議結果) 原案どおり承認。

第6号議案 令和6年度事業湯けむりライドシェア南部循環線(案)について

(事務局説明) 湯けむりライドシェア南部循環線(案)について説明。

(委員) 民間企業なので影響を検討したが、この事業による影響は軽微と判断したので、明確な反対という意見はない。今後は市と協議し、事業の成功に向けて何ができるのか検討していきたい。

(委員) 都市部で実施するという事は、これまで県内では見られなかった取組になるかと思うので、事業者と議論をしっかりと尽くしてもらいたい。

(委員) 地域内に新たな交通体系を導入するにあたっては、既存の公共交通への影響を考えることも重要だと思うので、交通事業者と行政との協議の場を設置してもらいたい。

(委員) どういう方を運転手として想定しているのか。障がい者の利用も可能な車両か。運行ダイヤは決まっているか。右回りか左回りか。予約運行か、予約方法はどうかなどについて伺いたい。

(事務局) 運転手は、消防署やバス事業者を退職された方など、ある程度の運転技術を持っている方を集めていきたい。車両は、1台は10人乗りのハイエース、もう1台は福祉車両で車いす2台乗

車可能で、一般の方は5名乗車できる車両を想定している。運行時間は8時～12時の平日、30分おきに普通車両と福祉車両を交互に運行させるので計10便となっている。湯都ピアを起点に反時計回りに循環する。

- (委員) 運送対価は300円となっているが、1乗車300円という認識でよいか。
- (事務局) アンケートで300円以下でないと乗車しないとの結果が出たので、1乗車300円で設定している。約60%の方が200円以下を求めているので、その辺も今後加味する必要がある。
- (委員) バスの運行区間と重複する箇所があるかと思うので、料金設定に間違いがないようにしてほしいという思いで質問した。
- (事務局) 今回は、流川通りは通らず、重複する箇所は少なくしている。
- (委員) アプリの導入は10月からとのことだが、それまでは電話予約という認識でよいか。
- (事務局) 10月までは予約型でなく、定時定路線で運行する。10月までの利用実態を分析し、アプリが必要か検討していきたい。
- (委員) 承知した。今回の南部循環線は実証実験として期間限定で運行してもらい、検証を重ねながらその継続を検討してほしい。事業者協力型自家用有償旅客運送ができたので、運行管理から運行までを交通事業者へ委託することが理想だと思う。
- (事務局) 今回は実証運行として開始する。実証運行期間は6月から3月までとし、4月から本格運行を想定している。実証運行中に分析を行い課題等があったら、実証運行の延期もあり得る。運行管理は、既に交通事業者へ相談させていただいている。
- (委員) 地域で新たな公共交通を導入する場合は、早急な導入が必要な場合でも、地域公共交通会議で協議して決定してほしい。
- (委員) 今後福祉車両も導入されることは理解した。ただ、交通空白地を埋めるだけでなく、時間空白地もライドシェアで埋めてもらえればと思う。障がい者も運転手不足で外出の機会が奪われている状況なので、検討願いたい。
- (協議結果) 原案どおり承認。

その他

- (委員) 別府駅西口は乗り場が3つあり、足元に待つ場所が書かれているが、東口は乗り場が1つしかなく、表示も無くて、観光客が混乱している。外国人が運転手に英語で質問するため、運転手も混乱している。案内整備を市の方で進めてもらいたい。
- (事務局) いただいた意見については、今後詳しくお聞きしながらできる範囲の中で対応していければと思う。